

<参加メンバー>

参加メンバー：7人（男性2人、女性5人）

天候：晴れ

<コースタイム>

JR大阪駅6：50～7：55姫路8：01～9：29岡山10：14～10：51服部駅～(タクシー)～11：05鬼ノ城ビジットセンター11：30～鬼ノ城城壁一周(西門～岩切観音～屏風折の石垣～北門～角楼) 14：20～ビジットセンター～砂川公園15：20～(タクシー)～服部駅15：32～岡山～大阪18：43 歩行時間(休憩含む)：約4H 歩行距離：約7km

<山行の概要>

今までは阪神間・淡路島や大阪などを対象としてきたが、今回は青春18きっぷを利用し今まで行ったことのない桃太郎伝説の残る岡山へ遠出した。

桃太郎の昔話では「桃太郎が犬、サル、キジをお供に鬼が島へ向かい、村人に悪事を働く鬼を退治した」ことが語られています。しかし、これは単なる昔話ではなく脚色はあるものの史実に基づいているようです。鬼とは“温羅(ウ)”という名前の朝鮮からの渡来人で“鬼ノ城(キノヨウ)”を拠点に吉備地方に勢力を広げており、大和朝廷は全国平定に邪魔な温羅(鬼)を征伐するために吉備津彦命(桃太郎)を大将に派遣し、吉備地方の豪族(犬・サル・キジ)の応援もあって討伐したというのが真相ではないかと思われます。結果、吉備津彦命は悪事を重ねる温羅から吉備の国を守った英雄とされます。一方“温羅”は朝鮮の土木建築などの当時の最先端技術を伝え村人と友好関係にあったとの言い伝えもあるようです。結局は歴史は勝者によって作られるということでしょうか？今回はこのような背景を理解し、古代に思いを馳せながら遺蹟を巡りました。

最寄り駅はJR桃太郎線服部駅、タクシーで鬼ノ城ビジットセンターへ、展示室で山の全体模型、城壁の出土状況、復元状況、城壁の土塁の作り方など理解をしたうえで、ビジットセンター前から歩き始めました。まず展望台へ、急峻な山の上に復元された城の西門と左右に続く高い土塁が遠望されます。ここで全体のイメージが実感できます。西門と土塁は圧倒的な迫力で迫ってきます。今のような重機がない時代にこんな山の上に人力だけでこんな壮大な土木建築物をよく作ったなあと驚きです。コースは西門を入り城壁(土塁)の上を一周します。途中、岩切観音で昼食。大岩に千手観音が彫られています。ここからは吉備平野が眼下に広がり、児島半島も見えます。四国の屋島も霞のかなたに。当時は海がすぐ近くまで迫っており児島半島は海に浮かぶ小島だったそうです。あとは屏風折城壁、温羅遺蹟をみて北側の土塁(草や林が茂り土塁とは分からなくなっている)の上を歩き北門へ。鬼ノ城山頂上へ緩やかな上り坂が続きます。頂上はなだらか丘のようで三角点は見つからずそこから出発点の西門はすぐ近く、鬼ノ城城壁巡りは終了です。あとは山麓の砂川公園まで下り、タクシーで服部駅へ。古代のロマンを味わえた一日でした。(Gi)



青春18きっぷの山仲間



岡山県総社市の鬼ノ城山へ



JR桃太郎線服部駅へ到着



駅からタクシーで



鬼ノ城ビジットセンターへ



まずは展示室見学



西門と土塁の復元模型



古代の土木技術はすごい



城壁の土塁は版築技術で



出発点はビジターセンター前



鬼ノ城の俯瞰模型、急峻な山の周囲に城壁(土塁)を巡らしている



展望台から西門と城壁(土塁)を望む



展望台にて



西門へ向かう



城壁(土塁)と西門が迫る



西門(復元)



城壁の外の敷石



城壁内にも敷石が

城壁(土塁)は強固な版築技術で築かれている。敷石は雨による土塁の流出を防ぐため。築城は朝鮮からの渡来人の技術による。



西門から続く土塁



土塁の上から吉備平野を見下ろす



南門(一部復元)



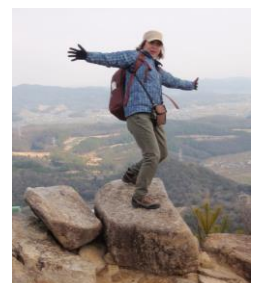
岩切観音の大岩



岩切観音



岩切観音前で昼食





温羅の遺蹟



北門



鬼ノ城山頂付近



城壁を一周して西門に戻ってきた



服部駅に帰着



桃太郎線で岡山へ



ジョビ'姉 (下山路で)

終り